

## <株式会社エフエム東京 第329回放送番組審議会議事録>

1. 開催年月日：平成18年3月7日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 本社10階大会議室
3. 委員の出席：委員総数7名（社外7名 社内0名）  
◇出席委員（6名）  
子安美知子 委員長  
青池慎一 副委員長 内木文英 委員  
横森美奈子 委員 渡辺貞夫 委員  
内館牧子 委員  
◇欠席委員（1名）  
香山リカ 委員

### 4. 番組試聴

#### 【番組名】「トリノオリンピック関連企画」

（2月13日（月）～24日（金）に放送された以下の番組のダイジェスト）  
「RIDE ON SATURDAY KAMASAMI KONG SHOW」土曜5：00～8：00  
「MOBILE JUDGE」金曜13：55/15：55/17：55 5分枠  
「Cheer Up Station from TORINO」期間限定特別番組\*  
「6 Sense」月曜～金曜 6：00～9：00  
「柴田玲のSUPREME」月曜～金曜 9：00～11：00

(\*「Cheer Up Station from TORINO」放送日時

月～金 6：15～6：20/9：00～9：10/21：55～22：00/  
土・日 22：55～23：00)

【番組概要】 トリノオリンピック開催に伴い、TOKYO FMでは入社4年目の報道・情報センター柴田幸子記者を現地に派遣し、現地からの生レポートを毎日実施致しました。

開催期間に合わせて毎日編成した番組「Cheer Up Station from TORINO」では、競技の結果や選手のインタビュー、リスナーからのコメントを紹介した他、柴田幸子記者が現地の様子を伝えました。映像には映らないような会場の様子や試合前後の選手の表情などを細かく伝えることにより、トリノがより身近に感じられるような、ラジオならではの取材を試みました。

また、24日(金)には金メダル受賞直後の女子フィギュアスケート荒川選手の「柴田玲の SUPREME」への電話での出演が実現しました。当番組では、荒川選手がエキシビジョンで使用した楽曲「You Raise Me Up」を演奏しているアイルランド出身の女性5人組ユニット Celtic Woman をかねてから応援しており、ちょうど前日(23日・木)に彼女たちのショーケースライヴを番組主催で開催していました。そして、そのイベントにて、「You Raise Me Up」を紹介する際に柴田玲アナウンサーが「明日の放送で今日の模様を紹介するときに、荒川選手おめでとう！と言いかながらこの曲を紹介できると最高ですね」とコメントしていたところ現実になったため、金曜日の放送には多くの驚きと喜びのメッセージが寄せられました。

本日はトリノオリンピック開催期間中に放送されたオリンピック関連の特別企画をダイジェスト版でお聴き頂きます。

<試聴時間：約22分>

【委員の意見および社側説明】  
(「○」委員意見／「■」社側説明)

- 今回のダイジェストは荒川選手がフィーチャーされていた。フィギュアでは音楽も大切な要素なので、ラジオでその音楽に焦点を当てて背景を取り上げる試みは良かったと思う。モバイルジャッジは面白い試みだ。ラジオならではの双方向性をうまく取り入れている。個人的に投票結果を知りたいと思った。オリンピックに関しては着眼点が沢山あると思うが、テレビでは聴けないようなアプローチがところどころにあった。個人的には柴田玲さんが荒川選手についていたネイルの色の質問などはラジオならではだと思い興味深く聴いた。
- メダルを取れなかった選手たちのコメントについても、もっと突っ込んで取材したら面白い話が聴けたのではないかと思う。試合前と試合後の心境などを丁寧に取材していくと、ひとつのストーリーになって面白いものができたと思う。
- ラジオというメディアのメッセージは体の中にしみじみと重なって残っていくものだと感じる。子どものころに聴いたラジオのオリンピック中継のアナウンサーのコメントはいまだに覚えている。ラジオならではの作り方を追求し、もっと突っ込んで作っていって欲しい。

- 全体的にうまく作っていると思った。実況部分と報道部分の組み合わせ方が面白かった。また、通常の番組の中でオリンピックの話題を非常にうまく取り込んでいた。たとえば「柴田玲の SUPREME」での C e l t i c W o m a n と荒川選手との結びつけ方がラジオならでは面白かった。テレビの報道ではなかったような取り組みで素晴らしかった。一つ気になったのは、柴田幸子アナウンサーを他のアナウンサーたちが愛称で呼んでいた点。内々のコミュニケーションをパブリックな放送にそのまま持ち込むのはどうかと思った。もちろん、そういう放送を喜ぶオーディエンスもいるのかもしれないが、私のコミュニケーション形態をそのままパブリックな放送に持ち込むのは如何なものか。疑問が残った。この点について、ぜひご検討いただきたい。
- 各競技の実況中継の音はテレビからもらっていた。独自取材やリスナーからのコメントなどの素材と組み合わせ、オリンピック開催期間中限定の特別番組や通常番組に取り込んで使っていた。
- 柴田幸子アナウンサーのレポートは落ち着いていて良かったと思う。前回アテネオリンピックの番組を試聴した際に、アナウンサーたちのミーハー的で騒々しいレポートについて好ましくないと指摘していたのが、今回のレポートに良い形で繋がっているように感じた。「シバサチ」と愛称で呼ぶ点は私も気になった。女子アナをタレント化して客をつかむ、という手法は一つのあり方だとは思うが、制作者サイドにこの流れに乗ってしまっていいのか、という情懷意識を常に持っていてほしいと思った。また所々でインタビューが下手だと感じた。一番驚いたのは荒川選手の指導者の先生が「荒川選手は一番になりたくないと言っていた時期があった」という突っ込みどころ満載のコメントに対して、インタビュアーが突っ込んでいなかったこと。先生の方がインタビューより上手。見出しになることを言ってくれているのに、インタビューは素通りした上に、「明日やってくれそうですか?」と質問し、最後は「神のみぞ知る」で締めていた。これが締めでは脚本家は原稿料をもらえない。どこを突っ込んでどこをドラマにすれば他のインタビューに勝てるのか、ということを予め考えておけばもっと良いものになったであろう。ただ一方では「男性が感じる女性の美しさとは違うかも」「筋肉すごいの?」などとても面白いと思うコメントもあった。荒川選手についてはどこの番組でも取り上げていたので、個人的に少しあきてしまっていた。負けた選手にスポットをあてても十分にドラマになる。その変の作り方を抜本的に考えて頂き、次回のオリンピックに活かして頂きたいと思った。
- 「ひょっとしたら男性が感じている荒川さんの魅力は女性が感じているも

のとは違うかもしれない」というコメントは非常に面白いと思った。荒川選手の指導者の先生のコメント「荒川選手は一番になりたくないと言っていた時期があった」は確かに突っ込みどころのあるコメントだと思った。ロシアに占領されていた旧東ドイツの子どもたちが、統一直後、「僕たちはロシア語で良い成績をとると苛められた」と言っていたことを思い出した。こういう突っ込みどころのあるテーマを別立てでもいいので、きっちり活かしていくと面白いものができると思った。

## 5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

## 6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送：番組「TOKYO FM ブランニューソング」  
3月24日（金） 5：00～6：00放送
- ② 書面：TOKYO FM サービスセンターに据え置き
- ③ インターネット：TOKYO FM ホームページ内  
<http://www.tfm.co.jp>

## 7. その他

次回審議会は4月11日（火）に開催することを決めた。

以上